

# 関東ふれあいの道を歩く (10) 神奈川 (⑩太田道灌・日向薬師のみち)

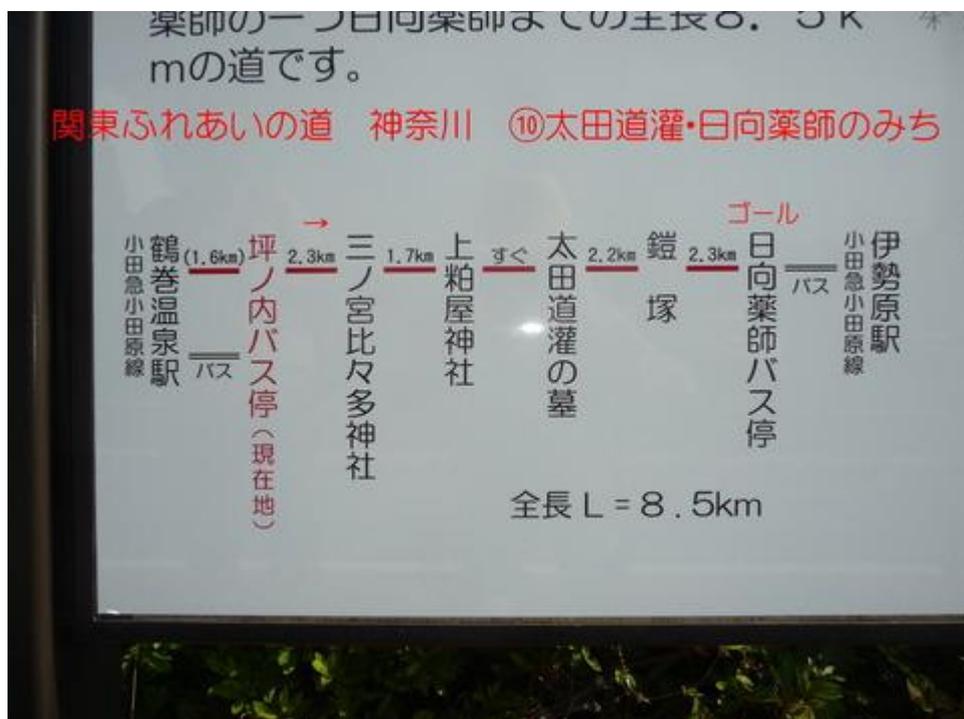
2019年7月26日池内 淑皓

2019年6月26日(水)梅雨の晴れ間を狙って「⑩太田道灌・日向薬師のみち」を歩いた。

最寄りの下車駅は鶴巻温泉駅で、前回ゴールの坪ノ内バス停から歩き始める。伊勢原最古の比々多神社に寄り、伯母様と言う珍しい名前の集落を通る、今日のお目当て太田道灌のお墓に参拝して、炎天下日向薬師へのバス道をひたすら歩いた。



「⑩太田道灌・日向薬師のみち」 概念図 (首都圏自然歩道協議会)



行程図 約 8.5 km の道程



梅雨の中休み、いい青空であるが暑い。今回の下車駅は鶴巻温泉駅



駅から伊勢原行きのバスに乗り坪ノ内で降りる、一時間に二本の割で出ている



坪ノ内バス停前が国道 R246 号線で、交差点を右折した際に、今日歩く案内板がある



この場所がスタートとなる、概念図と行程図を頭に入れてから歩こう



歩き始めて 100m程で左折し、農道に入る



道祖神、庚申塔が並ぶ静かな畑道となる



畑の端に沿って回り込むように里道に行く



坪ノ内の産土、八幡神社



長福寺前を通過



今日は暑くてたまらないが、早春であれば快適な道だね、車は殆ど通らない



「比々多神社」相模国三宮 祭神：豊国主神、天明玉神、日本武尊



社は、崇神天皇の御代、大化元年（675）に遡ると云う、冠大明神とも称す



これからの道中安全を祈願しよう



「環状列石（ストーンサークル）」境内の裏手にある。第二東名高速の工事中に出土した。境内の縄文遺跡から想定して、約1万年前の原始的な山岳信仰にまで遡と指摘されている。当然ご神体は大山となろう



バス停「中谷」で右折すると



次のバス停は「伯母様」の表示



伯母様の里



天文 19 年（1550 年）左衛門康則のおばさまに当たる梅林理香大姉が、この村を所領していたことから、この名がついたと言われる。（案内板）



のどかで良いところだ、婆は庭で水やり



爺は前の畑で畝造り



上粕屋神社前の道標 直進すれば七人塚、左折すれば産業能率大学へ



「上粕屋神社」この地の領主、上杉定正のお宮 祭神：大山くい神  
天平年間まで遡る、大山寺開創の際良弁僧正が社を開基したと云う（別説あり）



「洞昌院」曹洞宗 本尊：薬師如来 開基：太田道灌  
太田道灌は上杉の館で切られて、ここまで落ち延びてきたが、門扉が固く閉されていたため  
門前で絶命。以来この寺は、門扉を取り付けないと言う。



「太田道灌の墓（胴塚）」  
室町時代の文明 18 年（1486）太田道灌は上杉定正の執事として活動していたが、扇谷上杉と

山内上杉との内紛に巻き込まれ、上杉の館で暗殺される。首は縁者の大慈寺（伊勢原の下糟屋）に埋葬された。

左右ブリキの傘は杉の大木で、根回り 5~6m、樹齢 385 年あるという、道灌の死後 50 年頃植えられたと、伝える。



「七人塚」道灌に付き従ってきた七人も、ことごとく切られ、江戸城への通報は絶たれた



上杉定正の館を取り巻く空堀、現在上杉館は、第二東名高速道路建設のため消滅



この辺りは、縄文・弥生の遺跡が眠っている。高速道路建設に伴い、発掘調査を行っている。  
ふれあいの道は消滅してしまったので、産業能率大学目指して歩く。(右上隅の建物)



粕屋の道は、高部屋小学校前で伊勢原・日向のバス道路に交差する



「駒繋ぎの松」源頼朝の勅願寺である日向薬師へ向かう途中、松の根方に駒を繋いだと伝える



蒸し暑い炎天下、歩道のないバス道を 2.3km も歩くのは、暑くて厳しい、おまけに上り坂だ。



「⑩太田道灌・日向薬師のみち」ゴールの日向薬師バス停に到着。

鶴巻温泉駅（8：05）→坪ノ内バス停（8：20）→比々多神社（9：15）→太田道灌の墓  
（10：10）→日向薬師バス停（11：40）休憩見学含む

17、000歩 3時間20分であった。 この項完

関東ふれあいの道を歩く（11）神奈川（⑪巡礼峠のみち）に続く